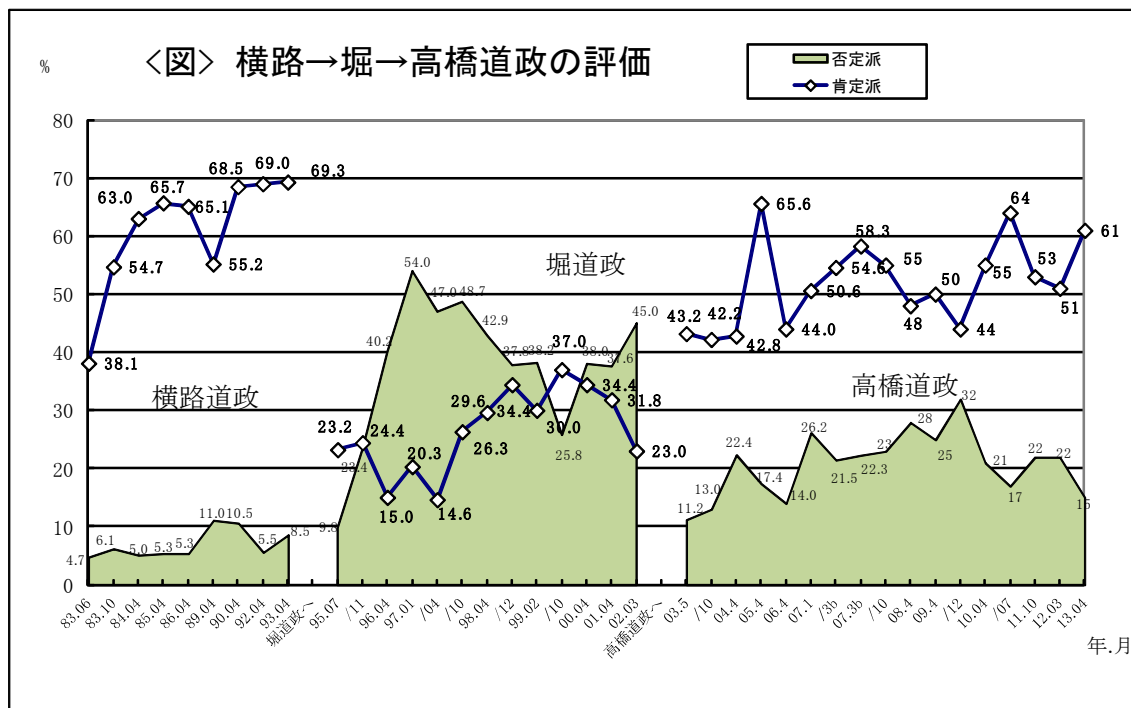


高橋道政の11年

－その1. 北海道知事選挙の構造



上図は横路道政以来の知事の支持率を描いたものだ(道新世論調査)。一番直近の高橋道政 10年を節目の調査(2013年4月)では、高橋知事の支持率は 61%。特段に高い支持率とは思えないのだが、「目立った功績もないかわりに、目立った失策もない」高橋知事は、何となく「強い」「底堅い」というような虚像も出来ているが…。

①全国知事支持率のランキング

高橋道政の通算した支持率平均は 51.9%。横路道政 3期 12年の平均支持率 61.0%に比べると 10%あまり低い。ただし堀道政 2期 8年の平均支持率は 26.5%と極端に低い(2002年読売ランキング調査で 37.5%。『北海道自治研究』12月号僧都論文より § 7. 高橋知事の政策・実績評価 全国 47位。1位は三重・北川知事の 81.9%)。

高橋知事は支持率ランキングでいけば、当選後 1年の 2004年調査では 54%・全国 26位(朝日・読売)。2010年 6月朝日ランキングでも 56%・全国 28位(1位は岩手・増田知事の 78%)。全国的には「中位(ミドルクラス)の支持率」と言って良い。

つまり高橋知事の支持率は、決して「高い」とは言えない。

■2003年	期待する	72%
景気雇用対策への期待度	期待しない	28%
■2004年	期待する	35%
道州制導入への期待度	期待しない	58%
■2005年	評価する	42%
景気雇用対策への評価	評価しない	33%
	どちらともいえない	25%
■2007年	賛成	43%
支庁再編への是非	反対	51%
■2011年	問題なし	33%
泊原発3号機再稼働容認への是非	問題あり	65%
■2013年	良くなった	32%
高橋道政10年で北海道は、どう変わったか	変わらない	56%
	悪くなった	12%

高支持率をマークするも、政策・実績評価は決して高くない

§ 8. 高橋知事の続投と民主党の対応

■2005年 2年後の知事選に向けて 続投を期待するか	期待する	64%
	期待しない	32%
■2010年 1年後の知事選に向けて 民主党の対応	独自候補を擁立すべき	30%
	相乗りすべき	8%
	どちらともいえない	61%
■2013年 知事は4選を目指すべき か	目指すべき	50%
	交代すべき	44%

支持率は上昇するも、高橋知事の続投論は意外に弱い

期7人28.1%。5期該当者なし。※3期→4期▼25%

※一般的に、適切と考えられている任期は2期までが過半数。知事は当選を重ねるごとに支持率を下げる。「3期目から多選批判としての不支持が現れ始めるように思われる。」

③多選批判の現状

・全国都道府県知事の任期(2014年1月1日現在)

1期(11名)、2期(17名)、3期(14名)、4期(1名-兵庫県・井戸敏三)、5期(1名-石川県・谷本正憲)、6期(1名-茨城県・橋本昌)

※4期以上3名ともに旧自治省出身、井戸・谷本は副知事を経験。

※橋本は1993年初戦以来1期～4期、6期の選挙はほぼオール与党体制(保革相乗り)で。共産党推薦候補との一騎打ち。2009年8月の5期選挙(衆院選同時施行)では自公推薦候補、無所属(五輪メダリスト)らが立候補。投票率も2005年郵政解散選挙同時開催の4期と5期で64%～68%だが、他の4回とも30%台と低投票率。

※谷本も2期目からほぼオール与党体制。1期～4期共産との一騎打ち、2010年3月5期目は桑原(元民主党衆議・旧社会党出身)と一騎打ち。今春知事選には民主党県議が離党して立候補予定(民主党は与党)。6選をめざす。

※井戸も1期～4期選挙は共産系候補との一騎打ち。NHK平清盛「薄汚れた画面」、自公民推薦候補。

・多選批判の条例化

※多選禁止条例…2007年10月神奈川県議会。「3期12年までとする」全国初の条例化。ただし国会での法改正が必要なため法的拘束力はない。

※多選自粛条例…埼玉県、東京都(杉並区、中野区、大田区)、横浜市など1県12区市町村で制定。憲法違反(基本的人権の保障や職業選択の自由)との指摘あり努力規定。

※4期以上の知事がないのは6道府県(北海道、滋賀、大阪、熊本、鹿児島、沖縄)

1. 堀知事は3選立候補を断念(2003年北海道知事選挙シミュレーション)

支持率調査で見たように、堀道政は全期間を通して、ほぼ支持率より不支持率の方が高

②「知事支持率の研究」(東大・前田幸男准教授。2008年JGSS調査。サンプル全国4千)

・知事の支持率(調査時点の47人の平均支持率)は、43.0%、不支持率は17.4%

・知事は何期ぐらいが適切か…

1期4年21.9%、2期8年51.0%、3期12年15.6%、4期16年0.4%、5期20年0.3%、それ以上0.7%。

・任期別支持率…1期18人46.9%、2期16人39.2%、3期6人37.2%、4

いとという不名誉な道政だった。これを2期目の知事選挙では自民党との相乗りでカバーし、

※2002年5月作成
別紙3-「A-2003年北海道知事選挙のシミュレーション」

◎注目知事選挙での候補者イメージ
 ※「B-注目する知事選挙」を参照
 ○女性と若者の支持。高い知名度、若さと新鮮さ。市民派・草の根運動からの支持。
 ○閉塞感を打破するリーダーシップ。変革への期待感。
 ○保守層の一部をも惹きつける人物的魅力と識見。国際感覚。
 ○構図としての「官と民の争い」。県庁批判。
 ○構図としての「相乗りと無党派の争い」。既成政党批判。
 ※「無党派の出番」(投票率アップ)を促すドラマ性。マスコミ好みの演出。
 ×多選首長。官僚出身。副知事からの候補。
 ×相乗り候補(無節操さ)。

◎注目知事選挙から提出されている課題
 ①「与野党相乗り」の構図(無節操さのイメージ)からの脱却
 ②「55年体制」型の構図からも脱却
 ③選挙スタイルも政党・組織主導型イメージからの脱却
 ※いわゆる「勝手連型・草の根選挙」に対する市民の共感
 ④「官民対決」(官の側に立つ)の構図は最悪

2003年の3期目も「相乗り」の方向で準備されてきた。

左表のシミュレーションは、2002年5月の[地域政府と政策を考える研究会](座長・山本佐門北海学園大学教授)に提出されたもの(一部省略)。

A表は、1991年の高知知事選挙以来、2002年徳島県知事・横浜市長選挙までの「無党派候補の勝利」首長選挙か

※投票基礎数は「C-99年知事選挙-堀知事の得票構造の分析」を参照

◎パターン1...いわゆる「無風選挙」相乗り現職と共産+泡沫。投票率58%					◎パターン2...激戦「有力無党派・相乗り現職・共産」。投票率80%					
※相乗りは「総与党的」現職。投票率最大で58%					※相乗りは「総与党的」現職					
	投票基礎数	相乗り現職	共産+泡沫	投80%比		投票基礎数	有力無党派	相乗り現職	共産	現職配分率
自民	560,000	476,000	84,000	0.9×0.85	自民	700,000	200,000	500,000		71.4
民主	412,500	288,750	123,750	0.75×0.7	民主	550,000	350,000	200,000		36.4
公明	270,000	243,000	27,000	0.9×0.9	公明	300,000	50,000	250,000		83.3
自由	120,000	108,000	12,000	0.8×0.9	自由	150,000	100,000	50,000		33.3
社民	105,000	42,000	63,000	0.7×0.4	社民	150,000	125,000	25,000		16.7
共産	270,000	13,500	256,500	0.9×0.05	共産	300,000	80,000	20,000	200,000	6.7
その他	105,000	63,000	42,000	0.7×0.6	その他	150,000	100,000	50,000		33.3
無党派A	828,000	496,800	331,200	0.6×0.6	無党派	1,380,000	880,000	500,000		36.2
計	2,670,500	1,731,050	939,450		計	3,680,000	1,885,000	1,595,000	200,000	

※札幌市長選挙も同様の構図と想定。投票率は58%以下。
 【投80%比】とあるのは「投票率80%の場合<有権者の関心が最大値>の投票参加率」×「現職への配分率」とした。
 ※有権者の選択肢が限定されたため、結果的に現職は過去最高得票。自民はほぼ前回並、民主微増(伊東分)、公明比率ではほぼ前回並、

※現職は善戦して前回並の得票をしても惜敗。むしろもっと減る可能性あり。
 公明は現職支持で固まるが、自民支持層の一部が離反。
 民主支持層は無党派化。共産支持層ももっと有力無党派に傾斜する可能性あり。

◎パターン3...激戦・新人対決。投票率80%

※民主系は「無党派的」新人

	投票基礎数	民主系	自民系	共産	自民得票分
自民	700,000	50,000	650,000		92.9
民主	550,000	500,000	50,000		9.1
公明	300,000	90,000	210,000		70.0
自由	150,000	50,000	100,000		66.7
社民	150,000	125,000	25,000		16.7
共産	300,000	130,000	20,000	150,000	6.7
その他	150,000	75,000	75,000		50.0
無党派A	1,380,000	780,000	600,000		43.5
計	3,680,000	1,800,000	1,730,000	150,000	

※あくまで基本構造。候補による変化はある。
 ここでは公明、自由は自民系に傾斜。共産は勝ち馬指向に乗る

らの教訓と課題をまとめた。知事選では、3つのパターンを想定し、「相乗り現職」(実質的に堀知事のこと)に批判的な立場からのシミュレーションを作成してみたものである(得票予測を立てる意味でのシミュレーションとしては初めての試みだった)。
 投票率はヒートした場合には80%、無風選挙となった場合には、58%にまで低下。

最終的には、堀知事は相乗りでの3選立候補を断念し(2003年1月)、知事候補として逢坂誠二氏(ニセコ町長)に対する期待が高まった(2002年12月に出馬要請、擁立決議)。

2. 幻の北海道知事選挙-逢坂氏は立候補を断念(2003.2.2)

民主党などから知事候補として期待されていた逢坂氏が、突然「不出馬」を声明し、結

局、民主党・連合は、鉢呂吉雄氏を知事候補に掲げ、短期戦での戦いとなった。

下表は、新人有力候補が出そろった 2 月始めに行った独自の世論調査結果(調査中に逢坂氏の立候補断念報道があり、調査そのものを中断)。その後の選挙結果と比べて分かるように、「すでに逢坂圧勝の構図」が描かれた状況であっただけに残念なことであった。

幻の知事選挙調査 2003.2.1-2調査、2日昼から中断									
対象 札幌市内(白石区)									
上段:実数 下段:横%									
知事候補の選択									
	合計	高橋はるみ	逢坂誠二	若山俊六	磯田憲一	酒井芳秀	その他	誰も支持できない	無回答
全体	393	52	121	15	52	1	4	94	54
	100	13.2	30.8	3.8	13.2	0.3	1	23.9	13.7
男性	100	13.5	38.4	3.8	13.5		0.5	19.5	10.8
女性	100	13	24	3.8	13	0.5	1.4	27.9	16.3
20代	100	43.8	18.8		12.5			18.8	6.3
30代	100	20	30		6.7		3.3	26.7	13.3
40代	100	14.3	35.7	5.4	12.5			21.4	10.7
50代	100	7.3	39.4	3.7	13.8		0.9	24.8	10.1
60代以上	100	12.7	24.9	4.4	14.4	0.6	1.1	24.3	17.7
農林水産業	100				50			50	
自営業	100	18.5	55.6	3.7	14.8				7.4
公務員	100	8.3	33.3		16.7			25	16.7
民間・建設製造	100	8.6	42.9	8.6	14.3			20	5.7
民間・販売サービス	100	18.4	35.5	5.3	11.8		1.3	19.7	7.9
主婦	100	9.9	26.4	1.7	12.4	0.8	1.7	30.6	16.5
自由業・学生	100	37.5	12.5					50	
無職	100	13	26	5	15			24	17
その他	100						33.3	33.3	33.3
自民党	100	29.5	27.4	1.1	17.9			14.7	9.5
民主党	100	2	64		16			14	4
公明党	100	5	25		15		5	35	15
共産党	100	11.1	30.6	36.1	5.6			11.1	5.6
自由党	100				75			25	
保守新党	100		100						
社民党	100		60	20					20
新社会党	100		100						
その他の党	100		41.7				8.3	16.7	33.3
支持政党なし	100	12.6	24.4		11.8	0.8		41.7	8.7
無回答	100	4.8	14.3		9.5		4.8	14.3	52.4

3. 2003年北海道知事選挙－選挙結果の構造

- ①次ページにあるように、選挙結果は高橋 79 万 8317、鉢呂 73 万 6321、磯田 42 万 8548、伊東 37 万 1126。投票率は 61.8%。1983 年横路道政誕生時の投票率 83.9%(VS 三上副知事)から、87 年 78.3%、91 年 71.8%、95 年堀 VS 伊東が 66.0%、99 年 63.7%と下がり続けた。
- ②高橋と鉢呂の差は、6 万 2086(得票率で 2.3%)と接戦。自民支持層は、高橋が 5 割弱しか獲得できず、磯田、鉢呂そして伊東に分散し、とても自民党推薦候補とは言えない状態。公明支持層はどうか 2/3 程度は高橋に投票して面目を保った。
- ③鉢呂は急遽の立候補の割には、民主支持層のほぼ 2/3 を固め(潜在的な磯田支持が相当あるものと不安視されたが)、自民支持層の一部にも浸透し、無党派からの支持でも相対的に優位に立った。状況からして健闘したと言える結果。
- ④無党派層が、完全に鉢呂、高橋、磯田、伊東の四人に分散した。
- ⑤磯田、伊東の立候補は、高橋、鉢呂の双方に大きな影響を与えたが、特に基礎体力で相対的に劣る鉢呂への打撃の方が大きかった。

2003年北海道知事選挙－選挙結果の構造										
選挙結果 ※投票率61.81%。有権者数 4,536,179										
有効総数		鉢呂	%	高橋	%	磯田	%			
2,725,746		736,231	27.0%	798,317	29.3%	428,548	15.7%			
		伊東	%	酒井	%	若山	%	その他	%	
		371,126	13.6%	167,615	6.1%	142,079	5.2%	81,830	3.0%	
最終調整…基礎数そのものを調整して結果に近づける										
投票参加		鉢呂	%	高橋	%	磯田	%			
自民 610,000		78,690	12.9%	300,120	49.2%	97600	16.0%			
民主 500,000		316,500	63.3%	45,500	9.1%	55,500	11.1%			
公明 300,000		24,900	8.3%	194,100	64.7%	34,800	11.6%			
自由 115,000		30,820	26.8%	30,820	26.8%	16,560	14.4%			
社民 115,000		53,245	46.3%	8,625	7.5%	17,250	15.0%			
共産 170,000		15,810	9.3%	12,410	7.3%	10,200	6.0%			
その他 110,000		27,940	25.4%	29,920	27.2%	19,250	17.5%			
無党派A 805,746		188,545	23.4%	177,264	22.0%	169,207	21.0%			
計 2,725,746		736,450	27.0%	798,759	29.3%	420,367	15.4%			
結果差		0	219	0.0%	442	0.0%	-8,181	-0.3%		
投票参加		伊東	%	酒井	%	若山	%	その他	%	差し引き
自民 610,000		60,390	9.9%	46,360	7.6	10,980	1.8	15,860	2.6	0
民主 500,000		47,000	9.4%	19,500	3.9	8,500	1.7	7,500	1.5	0
公明 300,000		18,900	6.3%	12,900	4.3	4,500	1.5	8,700	2.9	1,200
自由 115,000		18,975	16.5%	8,280	7.2	5,980	5.2	3,450	3	115
社民 115,000		19,435	16.9%	6,440	5.6	5,060	4.4	5,175	4.5	-230
共産 170,000		22,100	13.0%	3,400	2.0	101,150	59.5	5,100	3	-170
その他 110,000		16,170	14.7%	5,720	5.2	4,950	4.5	6,380	5.8	-330
無党派A 805,746		161,149	20.0%	64,460	8.0	16,115	2.0	32,230	4.0	-3,223
計 2,725,746		364,119	13.4%	167,060	6.1%	157,235	5.8%	84,395	3.1%	-2,638
結果差		0	-7,007	-0.3%	-555	0.0%	15,156	0.6%	2,565	0.1%
※結果との差では、得票率が0.3%以内に収まることで可とした。										
※共産・若山の結果差は、他の党からの支持に誤差が大きいものと推計し、無視した。										

4. 2007年北海道知事選挙－選挙結果の構造

2007年北海道知事選挙－選挙結果の構造												
有権者総数		4564275	投票率	64.13%	投票数	2,927,113	有効票	2,905,533	有効率	0.9926		
		荒井	981994	33.8%	高橋	1738569	59.8%	宮内	184970	6.4%		
アレンジ直した場合												
	投票基礎数	有効票	荒井	%	高橋	%	宮内	%	差引残	残率	無効票	
自民	800,000	794,400	63,552	8.0%	726,876	91.5%	3,972	0.5%	0	0.0%	5600	
民主	650,000	645,450	477,633	74.0%	154,908	24.0%	12,909	2.0%	0	0.0%	4550	
公明	350,000	347,550	27,804	8.0%	318,008	91.5%	1,738	0.5%	0	0.0%	2450	
社民	100,000	99,300	64,545	65.0%	28,797	29.0%	5,958	6.0%	0	0.0%	700	
共産	200,000	198,600	26,811	13.5%	35,748	18.0%	136,041	68.5%	0	0.0%	1400	
大地	190,000	188,480	113,088	60.0%	73,507	39.0%	1,885	1.0%	0	0.0%	1520	
無党派A	637,113	631,793	208,492	33.0%	398,030	63.0%	31,590	5.0%	-6,318	-1.0%	5320	
計	2,927,113	2,905,573	981,925	33.8%	1,735,874	59.7%	194,092	6.7%	-6,318	-0.2%	21,540	
確定値→		2,905,533	981,994	33.8%	1,738,569	59.8%	184,970	6.4%				
		誤差値	69	0.0%	2,695	0.1%	-9,122	-0.3%				
政党計												
		2,290,000		78.2%								
①マスコミ各社の出口調査の結果から選挙結果の構造を作り直した。												
②各政党の基礎数を全面的に見直した。 自民67万→80万、民主70万→65万、公明33万→35万、社民12万→10万、共産24万→20万、大地21万→19万。 結果として無党派は63.7万となった。												
③この政党の基礎数は、今回の知事選挙に限った変動であり、国政選挙(参院選)分析では別途整理する。												

① 2007年知事選挙も民主系は候補選考が進まず、前年12月に荒井衆議に立候補を要請。事実上、現職との一騎打ちとなった荒井は、民主支持層の3/4を固め、無党派の1/3などを獲得したが、自民、公明支持層の9割、無党派の2/3を得た2期目選挙の高橋知事には

及ばなかった。

②得票基礎数で、すでに「自民+公明>民主+社民+大地」で差がある中で、無党派の獲得でも2期目の現職優位(特に失点がない)で大差をつけら、圧勝を許した。

5. 2011年北海道知事選挙－選挙結果の構造

①自民党推薦で3選をめざす高橋に、民主党は「スーパー公務員」と評判の高かった木村を立てた。木村は1月16の日になって出馬表明。新党大地は民主党に対する不満から推薦を撤回し自主投票。民主党道議の鰐谷は独自の考えから立候補。

2011年北海道知事選挙-選挙結果の構造									
投票率	59.46%	有権者数		4,525,968					
有効票	2,661,858	木村	544,319	20.4%	高橋	1,848,504	69.4%		
		宮内	176,544	6.6%	かつや	92,491	3.5%		
	有効票	木村	%	高橋	%	宮内	%	かつや(残票割当)	
自民	685,000	34,250	5.0%	643,900	94.0%	0	0.0%	6,850	1.0%
民主	600,000	285,000	47.5%	270,000	45.0%	3,000	0.5%	42,000	7.0%
公明	300,000	12,000	4.0%	279,000	93.0%	0	0.0%	9,000	3.0%
社民	80,000	28,000	35.0%	37,600	47.0%	10,400	13.0%	4,000	5.0%
共産	200,000	18,000	9.0%	50,000	25.0%	130,000	65.0%	2,000	1.0%
大地	150,000	37,500	25.0%	100,500	67.0%	3,000	2.0%	9,000	6.0%
無党派A	646,858	129,372	20.0%	465,738	72.0%	29,109	4.5%	22,640	3.5%
計	2,661,858	544,122	20.4%	1,846,738	69.4%	175,509	6.6%	95,490	3.6%
選挙結果		544,319	20.4%	1,848,504	69.4%	176,544	6.6%	92,491	3.5%
	結果との差	197	0.0%	1,766	0.0%	1,035	0.0%	-2,999	0
マスコミ(複数社)の出口調査平均で行くと									
	投票基礎数	木村	%	高橋	%	宮内	%	かつや(残 %)	
自民	685,000	34,250	5.0%	643,900	94.0%	6,850	1.0%	0	0.0%
民主	600,000	288,000	48.0%	264,000	44.0%	6,000	1.0%	42,000	7.0%
公明	300,000	15,000	5.0%	273,000	91.0%	3,000	1.0%	9,000	3.0%
社民	80,000	31,200	39.0%	31,200	39.0%	15,200	19.0%	2,400	3.0%
共産	200,000	19,000	9.5%	44,000	22.0%	130,000	65.0%	7,000	3.5%
大地	150,000	37,500	25.0%	93,000	62.0%	7,500	5.0%	12,000	8.0%
無党派A	646,858	129,372	20.0%	452,801	70.0%	45,280	7.0%	19,406	3.0%
計	2,661,858	554,322	20.8%	1,801,901	67.7%	213,830	8.0%	91,806	3.4%
選挙結果		544,319		1,848,504		176,544		92,491	

②高橋は自民、公明支持層の9割超、民主支持層からも4割を超える安定的な支持を獲得し、前回選挙の173万を上回る184万8504票を得て圧勝。しかし投票率は59.46%に低下。

③木村は、民主支持層の5割弱しか獲得できず、民主党推薦候補としての体をなさなかった。

④社民支持層の4割、大地の6割、無党派の7割が高橋に投票し、木村が高橋にどうか優位に立ったのは(それもわずかな差だったが)民主党支持層からの得票だけだった。

6. 2015年北海道知事選挙の基本構造は

※別途検討…①4選批判の常識を拓ける、②投票率は最低65%(無党派層の投票参加を拡大)、③非自民のタッグ戦をどこまで組み立てられるか、④政策・人柄・道民党、その他

データ・北海道知事選挙—戦後の得票率構造

選挙年	社会・民主系	自民系	共産系	その他	投票率	備考
1947	53.8	46.2			68.2	※田中vs有馬
1951	54.1	45.9			81.2	
1955	64.0	36.0			77.0	
1959	46.6	52.8		0.6	80.9	※横路vs町村
1963	34.4	63.5	1.6	0.6	79.8	
1967	38.3	61.0		0.7	78.2	
1971	49.1	49.6		1.3	79.4	※塚田vs堂垣内
1975	44.8	55.2			84.3	
1979	42.9	56.7		0.5	82.3	
1983	49.0	46.8	4.2		83.9	※横路vs三上
1987	67.6	28.4	4.0		71.8	
1991	69.8	25.3	4.5		66.0	
1995	58.3	27.3	6.1	8.3	63.7	※堀vs伊東
1999	57.3	29.2	13.5		61.8	
2003	27.0	29.3	5.2	38.4	64.1	※鉢呂vs高橋、磯田、伊東
2007	33.8	59.8	6.4		59.5	※荒井vs高橋
2011	20.4	69.4	6.6	3.5		※木村vs高橋

